

## 情報Cの授業への取り組み ～実習内容とその評価～

富山県立入善高等学校 板川和則

### ●授業計画・内容

- ・使用教科書 実教出版 最新情報C (H19～)
- ・対象学年 1年普通科3～4クラス

	座 学	実 習
1 学 期	・メディアと表現 ・メディアと伝達	・情報機器レポートの作成 (情報機器の便利さと問題点)
	・情報の受信・発信における心構え ・情報のデジタル化	・大学紹介パンフレットの作成
	・効率的な情報通信	・画像の形式と特徴 (各形式の画像を比較する)
2 学 期	・情報の活用と問題解決	・気象データ分析 ・情報アンケート分析 (4月に実施したアンケートを分析する)
	・ネットワークのしくみとセキュリティー ・情報の管理と保護	・プレゼンテーション実習 (タイトル：私の身近にあるもの)
3 学 期	・情報化の光と陰 ・情報化とネットワークのひろがり	・総合実習 (班別にテーマを決めて発表する)

### ●今までの生徒の状況

- ・実習時間を有効に使える生徒が少ない。  
半分以上の生徒は、考えることが苦手なためか時間内で仕上げるができない。いくら時間を与えても無駄に時間ばかりを使って、作品を完成させることができない。また、前半で遊んでばかりいて、後半でちょこちょこ仕上げる者もいる。
- ・作品が未完成のまま放置されている。  
作成にばかり時間を使うため、作品の見直しや手直しをする時間がない。  
先生・生徒ともに、評価やチェックするだけの時間のゆとりがない。
- ・各生徒の、パソコン操作のスキル差が大きい。  
文章入力ほぼできる(できない者もいる)が、ワープロで枠線を書いたり図形を自由にレイアウトしたりすることがほとんどできない。表計算も、データの入力以外はほとんどできない。  
よく使える生徒 → あまり考えることをせず、パソコンで遊びがちである。  
あまり使えない生徒 → 文字入力も含め、同じ作業をしてもいつも遅れ気味である。
- ・情報の時間を、パソコンで遊ぶ授業と考えている生徒が多い？  
作品の内容が拙い。実習の内容をあまり理解せず、面白可笑しく自分本位に作品を仕上げる。

- 今年の取り組み：①. 完成したものを提出する。 → 相互評価・手直しをする時間を確保する。  
(未完成なものは、授業だけでなく放課後の時間等も使って完成させる。)
- ②. 時間内に完成させる。 → 下書きプリントの活用  
(情報の授業を「考える」時間ではなく、「作業する」時間として使う。)

## ● 取り組み①（相互評価や手直しをする時間の確保）

- ・作成したレポートやパンフについては、完成？した後に必ず「自分の作品を見直しする時間」「他の作品を見て相互評価する時間」を設ける。
- ・プレゼンテーション発表については、リアルタイムで相互評価をおこなう。
  - 他の生徒の作品を見ることで、自分の作品を相対的に評価することができる。また、相互評価した文章を残すことで、自分の書いたことに責任を持たせることができる。ただ、今のところどれだけの効果があったのかは未定。なかなか目に見えてこない。
  - 自己評価・相互評価をする時間は確保できても、自分の作品を手直しする時間があまり確保できない。放課後の時間を利用するしかなく、手直しをするかしないかは本人次第である。

## ● 取り組み②（下書きプリントの活用）

- ・実習を行う前に下書き用のプリントを配付し、家で予習してくるよう指示する。
- ・予習してきたことを、複数で情報交換する場を設ける。
  - 相変わらず「予習してこない」生徒は多いが、以前に比べれば、下書きを書いて授業に臨む生徒は増えてきたように感じる。時間を無駄に使うことが少なくなった。
  - その一方で、未完成の生徒に対するアフターケア（放課後の居残りなど）が必要となってきた。

## ● その他（実習内容の記録・総合実習で実施）

- ・その日に自分がやったことを、報告書に記録し、残しておく。
  - 自分がやったことをその場で振り返ることで、その反省を次回につなげることができる。また、次回することや次回までに必要なことを事前に確認することができる。
  - 授業時間内で、報告書を書く時間を確保する必要がある。その分だけ、作業する時間が少なくなる。
  - 先生が全部に目を通してチェックすることが難しく、書きっぱなしで終わってしまう可能性が高い。記録したことが活かされているかどうかは、本人次第である。

## ● 現在までの取り組みを振り返って

下書きプリントの利用や相互評価の時間を取り入れることなどで、少しずつではあるが内容の濃い作品や発表が増えてきたように思われる。特に後半のプレゼンテーション実習では、スライドをつくるだけで精一杯だったものが、発表用のシナリオを事前につくり、リハーサルをおこなってから発表する生徒が増えてきた。

一方で、相変わらず「予習をしてこない」「作品が仕上がらない」という生徒がいる。放課後を使って最後まで完成させるようにはしているが、放課後ではなかなか生徒にアドバイスできず、ただ仕上げるだけという状態である。

また、予習してきたからと言って、必ずしも良い作品が仕上がるとは限らない。予習してこなかったのに時間内で作品を仕上げる者、予習してきたのに思い通りに仕上げられなかった者、さまざまである。パソコン操作のスキル差が、ここで大きく出てしまうようである。スキルを教えるだけでも時間を費やしてしまう状況である。

- 文章は入力できても、枠や図表などがつけれない。 → 中学校で習ってきていない、徹底していない。
- 枠や図表を思うような場所にレイアウトできない。 → アプリケーションでの設定が複雑で面倒。

各先生方がどのように授業に取り組んでいるのか、どのように授業を工夫しているのか、この研究発表の場を利用して情報交換できればと思う。